

水稻新品種

「きらみずき」情報No.2

令和6年7月4日

滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課

(東近江農業普及指導センター)

遅れずに穂肥を施用しましょう！ ～5月10日頃移植で7月10日頃から～

1 管内の「きらみずき」生育状況

- ・初期生育は順調に進み、既に中干時期を迎えています。
- ・一部ほ場では還元障害により生育が緩慢になりましたが、中干し以降、葉色の回復が見られ、現在の生育は良好です。

(表)管内実証ほ調査結果(6月21日時点)

移植日	5月10日頃	5月15日頃	5月20日頃
草丈(cm)	38.6	33.9	32.7
茎数(本/㎡)	401.0	332.3	268.6
葉色	40.4	37.9	38.1

※管内9地点の結果を取りまとめた結果。



※5月10日移植の「きらみずき」(7月1日時点)

2 穂肥を適期に施用しましょう！

「きらみずき」収量確保のためには、生育後半まで葉色を維持することが重要です。そのため、以下の施用時期・施用量を目安に穂肥を2回に分けて、規定量施用しましょう！

穂肥の目安

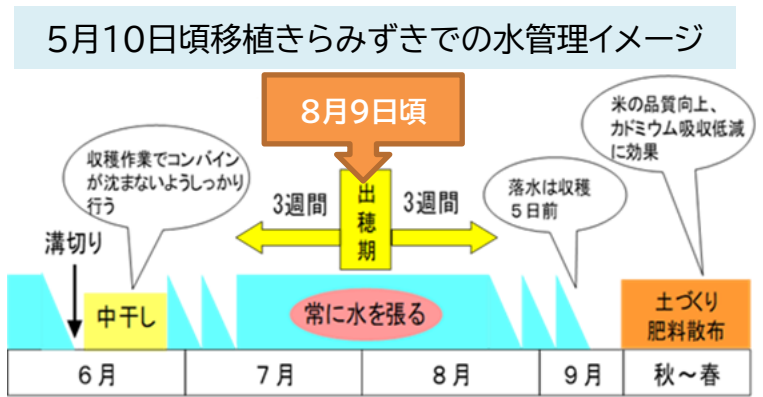
	移植時期	1回目 幼穂形成期(幼穂長1mm) の1週間前	2回目 1回目の2週間後
施用時期 (※1)	(5月10日移植) (5月15日移植) (5月20日移植)	7月10日頃 7月12日頃 7月14日頃	7月24日頃 7月26日頃 7月28日頃
	使用肥料の例	1回目	2回目
施用量 (※2)	滋賀こだわり元肥855 有機アグレット844 有機アグレット727 有機アグレット674	35kg/10a 35kg/10a 40kg/10a 50kg/10a	40kg/10a 40kg/10a 45kg/10a 50kg/10a

(※1)今後の天候や地域によって施用時期が異なる可能性があります。

(※2)オーガニック栽培では有機アグレット727、有機アグレット674を使用して下さい。

3. 今後の水管理

- ・出穂期前後は水稻が最も水を必要とします。**出穂前後の各3週間を常時湛水**することで玄米品質低下を軽減できます。
- ・環境保全型農業直接支払交付金で「長期中干し」を選択されている場合は、14日以上の中干しを確保してください。

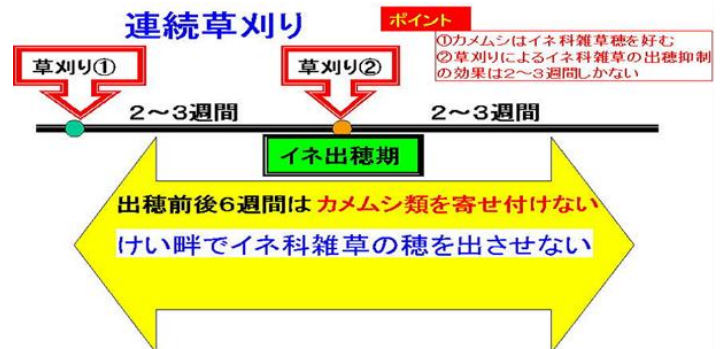


4. 病害虫対策を徹底しましょう！

「きらみずき」は殺虫・殺菌剤が使用できないので、病害虫の発生しにくい管理に努めましょう。

①カメムシ対策！畦畔を2回連続草刈

- ・斑点米の原因となるカメムシ類は、ヒエ等のイネ科雑草の穂を好み、畦畔に集まります。
- ・そこで、**イネの出穂3週間前と出穂期の2回畦畔草刈り**を行い、カメムシ類を寄せ付けないようにしましょう。



②いもち病が発生しにくいほ場管理を徹底しましょう！

- ・補植用の余剰苗は葉いもちの発生源になります。未だ処分されていないほ場がありますので、**早急に処分**してください。
- ・畦畔の雑草が繁茂すると、風通しが悪くなり、いもち病の発病やまん延に繋がります。**畦畔除草**を行い、**風通しを良く**して病害が発生しにくい環境を作りましょう。
- ・葉いもちが発生するなど、穂いもちの発生が懸念される場合は**穂肥の施用時期を遅らせる**などの対応をしましょう。